

高校大学生世代に向けた ピアサポート支援プログラム 「みつけばルーム」

世田谷区 障害福祉担当部

世田谷区の概要

- 人口

約90万人(人口、世帯数ともに23区中第1位)

愛の手帳所持者数 約4,300人

精神保健福祉手帳所持者 約5,270件(直近3年で18%増)

- 面積

58.05km²(23区中第2位)

- 特徴

住宅街が多い

大学が多い(四年制12校)

下北沢、成城、二子玉川

三軒茶屋、サザエさん など...



世田谷における発達障害支援の経緯

- H16年 「第1期 子ども計画」における最重要課題
に位置づけ支援の検討を開始
- H20年 「発達障害児支援基本計画」 策定
- H21年 発達障害相談・療育センター「げんき」開設
- H24年 成人期発達障害者支援 試行開始
- H27年 発達障害者就労支援センター「ゆに」開設
- H28年 「発達障害支援基本計画」 に改定

世田谷区発達障害支援基本計画

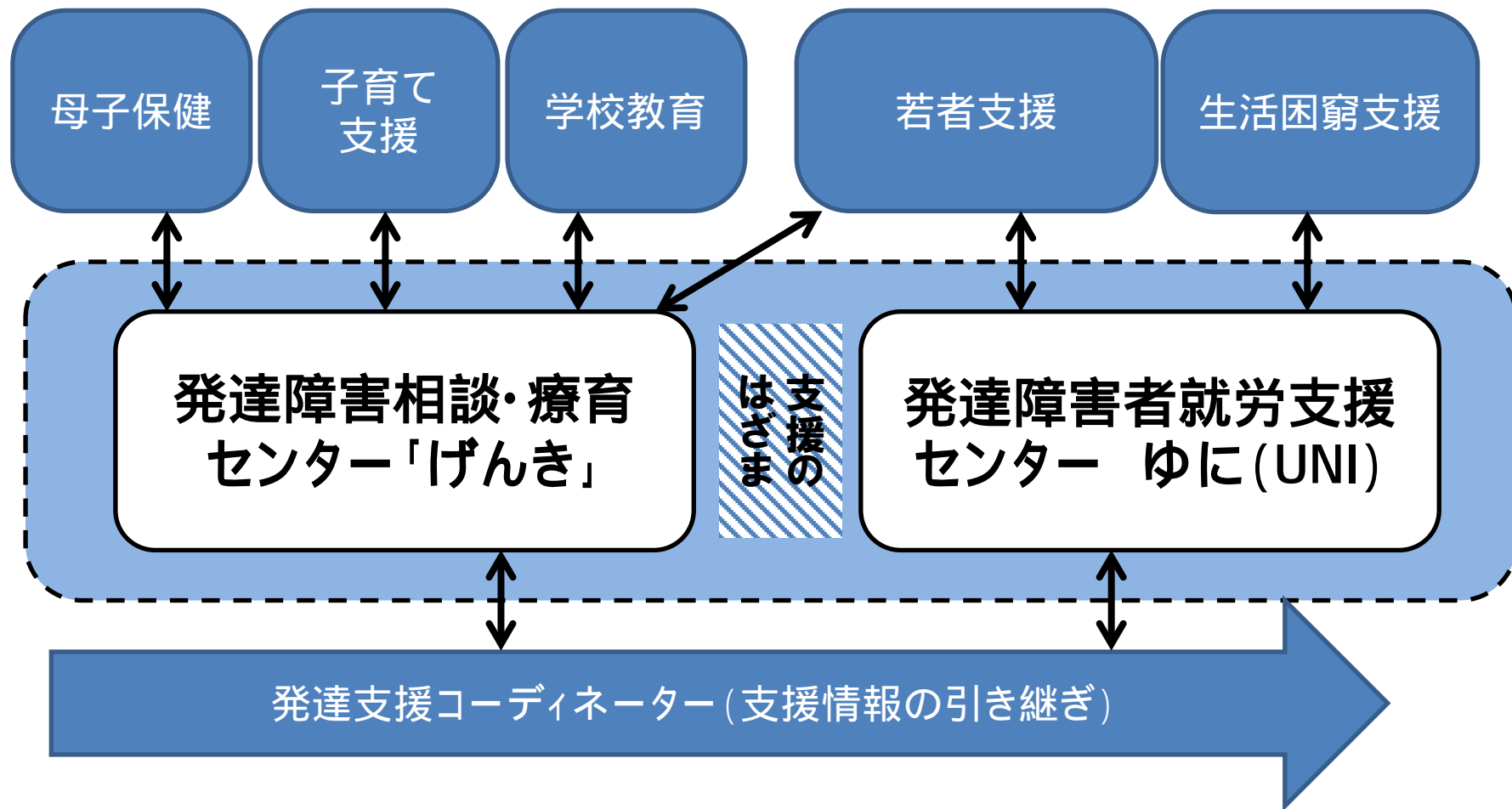
【基本目標】

発達障害の特性がある区民が、住み慣れた地域で、自分らしい生活を安心して継続できるように支援する

【支援の方向性】

- ・早期に必要な支援に繋がることができる支援
- ・当事者・家族の困り感に寄り添う支援
- ・地域で適切な合理的配慮を受けることができる支援
- ・ライフステージを通じた支援

支援の「はざま」



支援の「はざま」

20年以上ひきこもっていたケースが
親の老化とともに支援の窓口へ

思春期に不登校

長期間ひきこもり

ひきこもらせないための
予防的な関わりが必要

対象者像

マイノリティであるが故に・・・

- ・ 周囲から理解されない
- ・ 頑張ってるのに認められない
- ・ 劣等感が強い(肯定感が低い)
- ・ 自分だけが苦しいと思っている



社会に出るのが怖い
自信が持てない

対策の検討

- 思春期(高校・大学生世代)を対象
- 「療育」でもなく、「就労」でもない
- 社会参加の意欲向上を目指す「場」

ピアサポートの有効性

ピアサポートとは…

ピア（当事者、同じような境遇の人、仲間）
同士が交流するプログラム

- 東京都自閉症協会との共同により、H24年より若者サポートステーション利用者のうち、発達障害的な特性から就労・自立に繋がらない若者を対象にピアサポートの支援プログラムを実施（月2回）。

ex: 「生きづらさについて語ろう」

「調理を通してチームワークや段取りを考えよう」 など…

ピアサポートの有効性

- 「普通」にあわせなくてもいい
自分らしくしてもいい
ありのままの自分が認められる
- 「自分だけ」ではない
分かってもらえる
シェア(共有)されることで楽になる



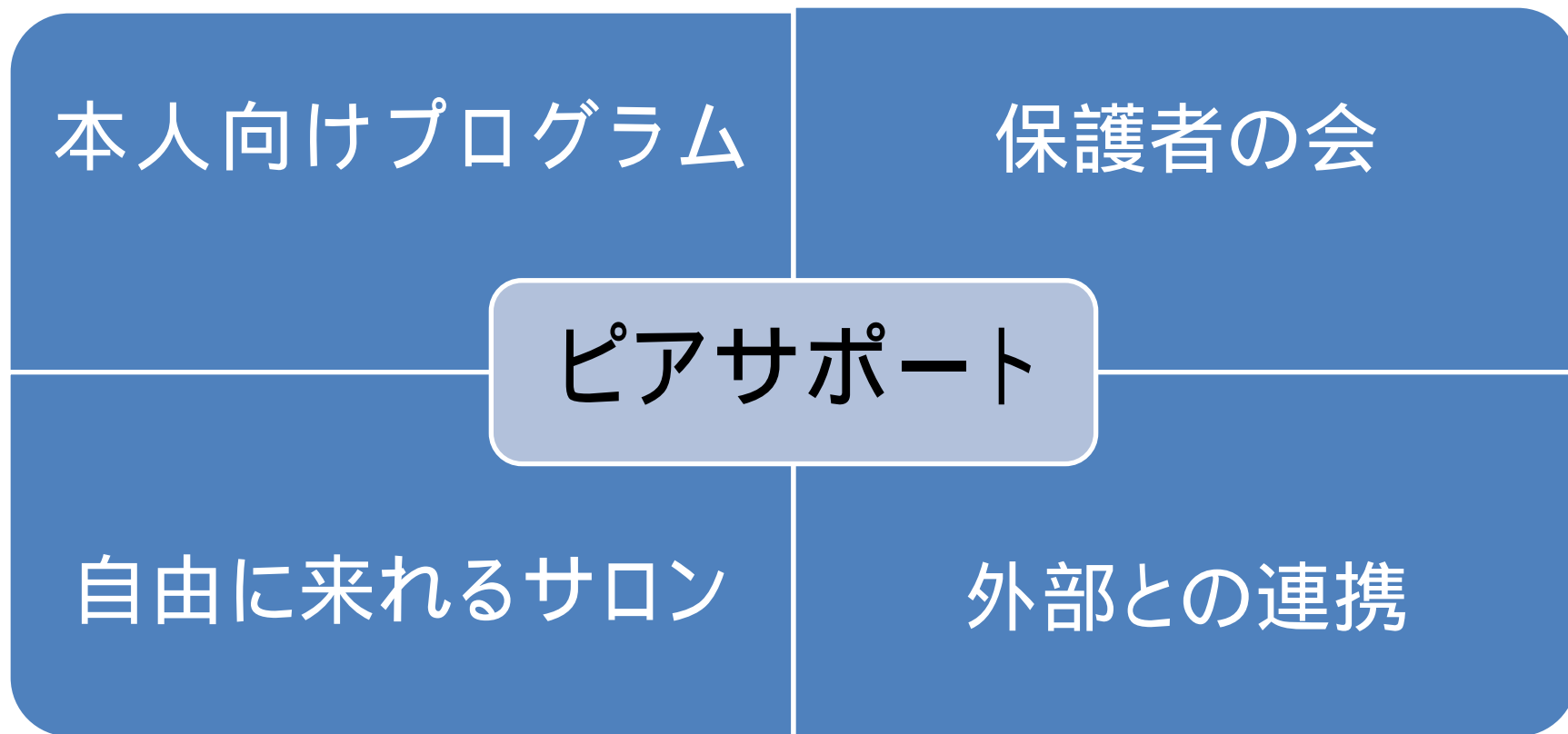
- 孤立感の解消、自己肯定感の向上、社会参加の意欲向上に効果が認められた。

「みつけばルーム」

高校・大学世代の発達障害者の「ひきこもり」を予防するための居場所。ピアサポートにより孤立感を解消し、様々な体験プログラムを通して社会的自立に向けた意欲向上を図る「場」

- 実施期間 平成28年6月1日～
- 実施場所 世田谷区大蔵2-10-18
大蔵二丁目複合型子ども支援センター3階
(発達障害相談・療育センターと同建物)
- 実施形態 運営をNPO法人東京都自閉症協会へ委託
- 利用対象 15～25歳の発達障害特性のある方(登録制)
- 利用料金 無料

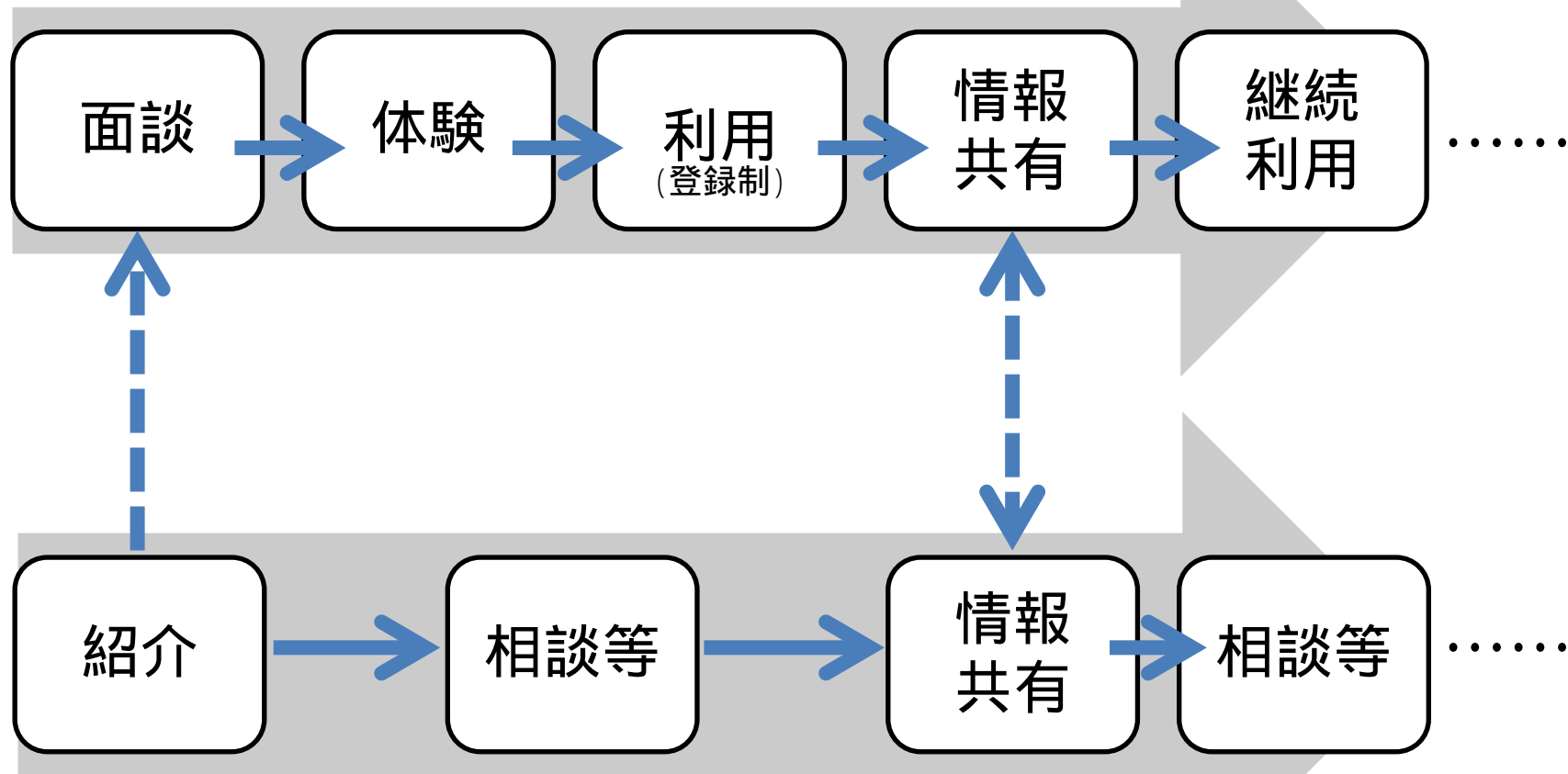
みつけばルームの支援内容



- ・みつけばルームでは、いわゆる「相談」や「ケースワーク」は行っていない。
- ・「相談」が必要な方は紹介元機関で行う。
- ・紹介元機関とは適宜情報の共有を行っている。

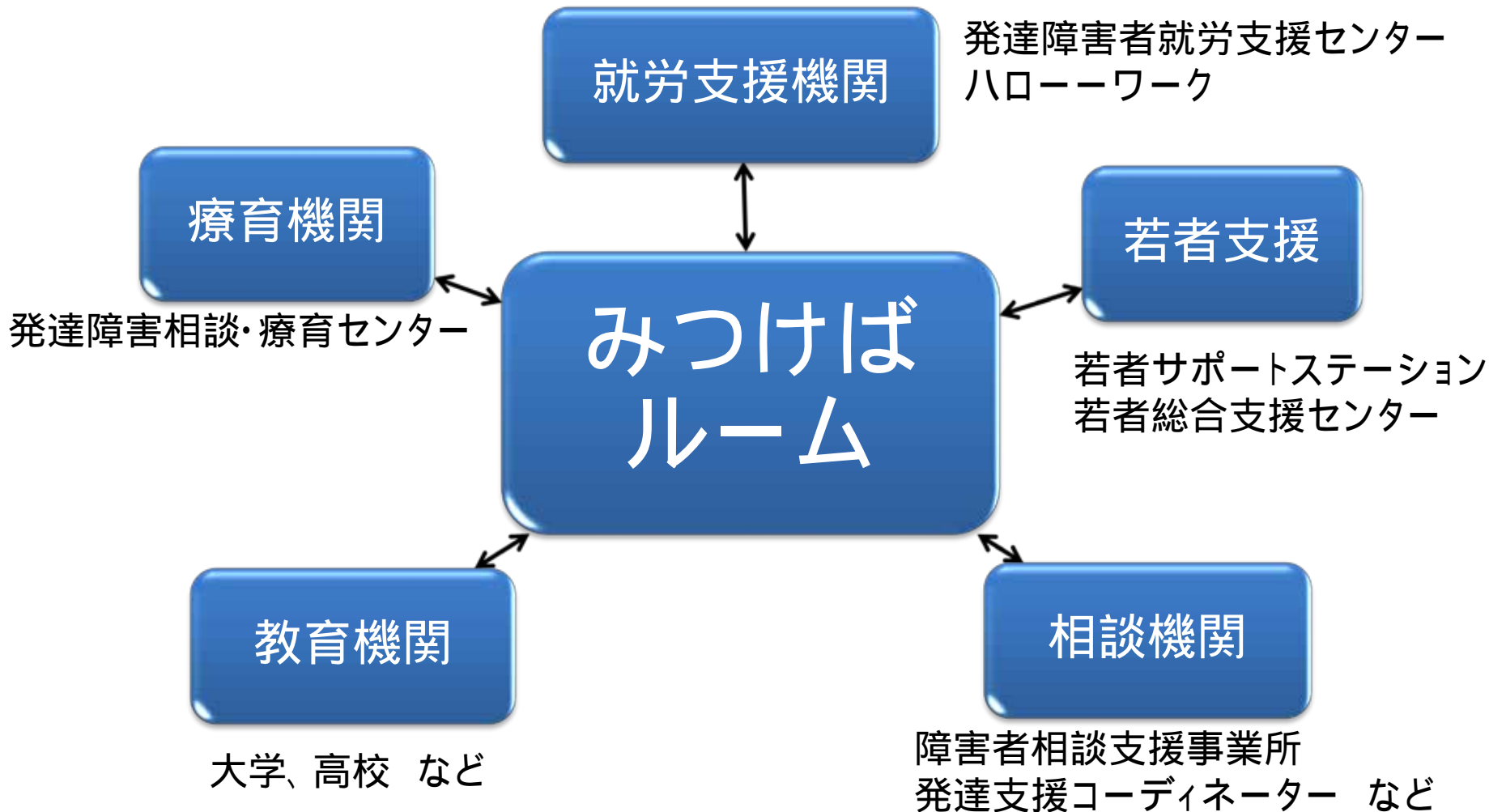
紹介元との連携イメージ

「みつけばルーム」



紹介元機関

連携体制



成果

- 当事者の社会参加の機会に
- 自立へのモチベーションが向上
- 興味・関心の広がり
- 自分に自信が持てるように
- 保護者の「子離れ」への意識に変化

整理すべき課題

- ピアスタッフの安定的な確保
- 「相談」、「ケースワーク」のあり方
- 支援の「成果」や「終結」について
就労だけがゴールではない。が・・・
「沼」ではなく「川」に
- 「当事者視点の支援」と「普通の支援」の整合
- 当事者会、当事者団体の強化